

令和8年3月31日

次年度に向けた改善方策

赤松学舎 世田谷区立松沢中学校
校長 大塚 洋一

令和7年度学校関係者評価委員会からの報告では、学校の取り組みや教員の指導に対する評価は高いことが記されている。多くの項目(学習指導、生徒指導、学校行事、教員との関係性)で高い評価を得ていることから、引き続き、「生徒の自主性を尊重し、丁寧にひとつひとつに取り組んでいく」よう学校全体で強く意識していくことをまずは挙げさせていただきたい。しかし、この評価には表れていない問題、一年間の中でご指摘いただいた課題については、学校として検討、改善していかなければならないことである。

そのことを踏まえ、新たに「次年度に向けた改善方策」として次のように設定した。

「しなやかな心」(非認知能力)の育成を柱とし、以下の取り組みを行う。

- 1 互いを尊重し、共に学び共に育ち、自ら考え行動する力をはぐくむ教育の推進
 - (1)自己指導能力を身に付けられるよう、生徒の指導と教育相談が一体となる指導「させる指導から支える指導へ」を実践していく。
 - (2)道徳の授業や人権教育を通して、生徒自身が多様性や命の大切さを理解し、自他を尊重する豊かな心を育む。
 - (3)委員会活動、学校行事などでの異学年交流、通常級と特別支援学級との交流を通して、多様な他者への共感、他者との協働ができる場を大切にする。

- 2 幸せな未来をデザインし、新しい知を創造する「キャリア・未来デザイン教育」の推進
 - (1)自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究プロセス」を身に付けさせる。
 - (2)キャリア・未来デザイン教育の一環として、3年間の系統的・計画的なキャリア教育を推進する。生徒にとって進路・進学に限定されない「未来」「生き方」を考えさせる。
 - (3)地域児童館と連携した赤ちゃんふれあい体験、地域と連携した職場体験、近隣大学と連携した学生ボランティアによるキャリア交流会などを計画・実施する。

- 3 地域連携の充実と適切な情報発信の改善
 - (1)情報発信の活用方法、運用方法について、検討・整理し、必要な情報をタイムリーに発信していくよう再構築する。
 - (2)学び舎小学校との連携による非認知能力の育成に向けた系統的な指導ビジョンの共有を構築していく。